

令和2年7月8日（水）

『釜石高校「夢団」、大船渡高校「自然科学部」と交流会をしました』

7月4日（土）、大槌町文化交流センター「おしゃっち」にて、本校復興研究会と釜石高校「夢団（ゆめだん）～未来へつなげるONE TEAM～」、大船渡高校自然科学部の3つの団体が交流会を行いました。釜石高校の「夢団」は、現在釜石高校3年 太田夢さんが発起人となり、東日本大震災を経験した記憶のある最後の世代（太田さんは震災当時小学校2年生）として、震災の経験や知識の伝承をおこなっているボランティア団体です。また、大船渡高校「自然科学部」は、三陸ジオパークをプロデュースする「ジオプロ」という活動を行っているほか、各地でイベントも行っています。

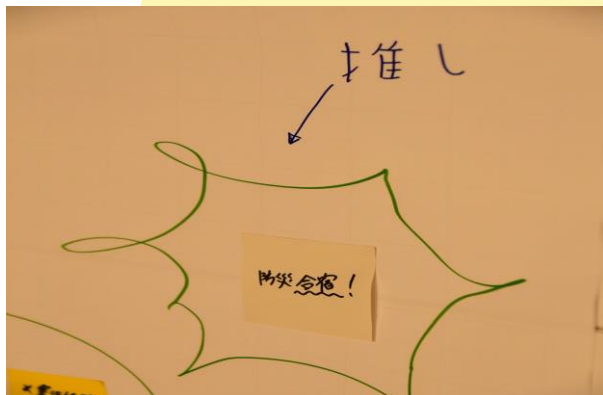


今回の交流会は、夢団の活動を応援している、一般社団法人 三陸ひとつなぎ自然学校のご協力により、実現しました。今年3月に復興研究会と夢団とで顔合わせを行い、本来であれば3月下旬に本格的に交流会を行う予定でしたが、新型コロナウイルスの影響のため延期になりました。今回、約3か月越しの交流の実現に加えて大船渡高校の参加により、より一層盛り上がりました。



はじめにアイスブレイクを行い、初対面の緊張をほぐしたのち、各校が今まで取り組んできたことの発表を行いました。本校は復興研究会の変遷と、土沢葵さんの「防災紙芝居」を発表しました。また、「防災絵本」の宣伝もおこないました。「防災絵本」はこの日、夢団のメンバーたちに寄贈しました。

その後、生徒たちが5つのグループに分かれ、交流会を行いました。「これから一緒に何ができるか?」というテーマのもと、夢団のボランティア活動や本校の定点観測などを合同で行えないか、「防災合宿」ができないか、など、様々なアイデアが出されました。



全体の場でアイデアを共有して、この日は解散となりました。このアイデアを基に、各団体同士の交流を深められるよう、様々なアクションが期待されます。

